

# 令和5年度 ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する 青木小学校プラン

《学校の教育目標》豊かな人間性「あきらめない」「おもいやりのある」「きりつただし」子どもの育成

〈本年度 学校の重点目標〉 自ら感じ、考え、行動し、未来への希望を抱く子どもの育成

自分の経験や他者との交流を通して問題解決したり、新たな価値を創り出したりすることができる  
【つくる力】

自分と他者を大切に考え、相手の気持ちを考えて行動することができる  
【つなぐ力】

目標に向かって困難を乗り越える強い意思をもち、やり抜くことができる  
【つらぬく力】

## 学びをつなぐ授業

- ①「くるめ授業スタンダード」を基本に、授業での交流活動の位置づけと振り返りの確実な実施を図る。(各教科・学期毎)
- ②ねらいや活動を焦点化し、ユニバーサルデザインの視点による授業づくり(板書、発問等)を行うとともに、方法と結果の見通しを持たせる工夫を行う。(各教科・毎時間)
- ③ICT機器を活用し、教材提示、情報収集、意見交流、写真や動画等によるポートフォリオを行う。(1日3回以上)  
【成果指標】授業で1日3回以上chromebookや書画カメラなどのICTを使用していると答える児童の割合が90%以上
- ④外国語の授業方法の研修の実施(年間1回)、ペアやグループ、少人数で目的や状況に応じて、外国語で伝え合う活動を行う。(外国語 毎時間)

## 笑顔の先生

- ①伝え合う喜びを実感する授業研究に取り組み、計画的な研修を実施する。(全員授業公開)
- ②行事や集会活動の精選、再構築を図り、特別時制による放課後の時間確保、会議の効率化や軽重のある業務の遂行を図る。(PC上での提案・学期毎)  
【成果指標】「先生は分かるまで教えてくれる」と答える児童の割合が85%以上

## 協働する学校・家庭・地域

- ①学力の保障と向上の課題を解決するために、子どもたちに家庭学習の手引き等を通して、学習習慣の定着・強化を図る。
- ②学校、家庭、地域が連携し、進んであいさつをする子どもの育成や「アウトメディア週間」を設定して親子でふれ合う時間を増やす取り組みを行う。
- ③城島中校区人権のまちづくりとして小・中の学力向上のために家庭学習・生活習慣(アウトメディア)強化週間の取組について統一を図る。

## 楽しい学校

- ①「くるめアクションプラン」の初期対応を徹底する。(毎日)いじめ・不登校対策委員会で子ども達の課題や対策等を検討し、全職員で共有する。(月1回)学校生活の状況や悩みを把握するため、児童との二者面談(毎月)を行う。  
【成果指標】不登校傾向数が1人以下
- ②定期的な施設設備の安全点検(毎月)と管理職による巡回(毎日)を行う。
- ③縦割り班活動や児童主体で計画・運営する集会を開催し、自分や友達のよさを振り返る活動を行う。(随時)

## 【体力向上】

- ①体育の準備運動の一環として、持久力向上のための1分間走や長縄を推奨する。(毎時間)さらに、的当て等の用具を活用しボール投げ向上を図る。(随時)
- ②青木小学校チャレンジ元気広場(長縄) (「1校1取組」運動)  
・体力アップシート活用率:目標100%  
・スポコン広場登録学級数:目標6学級

## 【あいさつ・そうじ・言葉遣い】

- ①「青木小あいさつ合言葉」を受け継ぎ、友達、教職員、地域等に進んで挨拶するために、児童主体の挨拶運動を行う。(各学期、学級2回)
- ②掃除の合言葉「さしすせそうじ」を奨励し、教師も一緒に行う。(毎日)※縦割り班による協働的な掃除
- ③気持ちのよい言葉遣いについて、学年毎のめあてに沿って実施・評価する。(各学期)

## 基盤として大切にすること(本年度の重点)

- 【人権・同和教育】「人権・同和教育の視点に立った指導のポイント」を活用して、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を行う。 [要綱 P124 ~参照]
- 【特別支援教育】「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」とともに、特別支援コーディネーターを中心に、学習や生活で困難さのある児童への支援を全職員で協働的に行う。 [要綱 P135 ~参照]
- 【キャリア教育】キャリアパスポートを充実し、活用して自己の学びの伸びや高まりを認め合う。 [要綱 P176 ~参照]